

頭を振りながら、

「さて、此の大きな樫の木に、あんな小さな實  
が結つて却つて、あの、細い蔓には、あんな大き

を打たれた、若し、此樫の實の大きさが西瓜の様で  
あつたら今に此鼻は潰されてしまつたらう、し  
て見ると、やつぱり私しの思つたよりは都合よく

な西瓜が結るとは、何ん  
と不都合な話では無いか

出来て居るのだから。

若し私が世界を造つたな  
らば、樫の木に西瓜を結

笑ひ草

三河 近藤とさき子

らせて、あの蔓には樫の  
實を結らせる様にしたも

わたるものは食ない  
妾しの隣の鎮夫さんとい

のを、不都合なとだ」と  
獨り言を云ふて居りまし

ふ今年六才になる男のお  
子さんが、何時も妾しの

た。すると、樫實が一粒  
落ちてきて、この人の傲慢な鼻先を打ちましたの

所へ遊びに来まして、お

で其男は吃驚して

話をして頂戴、御菓子を下さいといひます。或時  
妾しが、鎮ちゃんいものを上げるから、食べま

「嗚呼、私しの傲慢が過ぎたもんだから、忽ち鼻

すかと申しますと、何でも食べると申しますから

戯に側の猫火鉢を出して、さ此を上げるからか  
上りといいましたら、鎮ちやんは お祖父さまが  
あたるものは食べてはいけないと仰つたから、夫  
はいやだよ」といいました。

二番ばえ

肥後 獨醒軒主人

私の祖父の若い時であつた話です、明治の御代  
でなく、天下様の時であつた或る年の秋の祭りに  
家中の二番ばえ（士族の二男株です）五六人來て  
一週間から滞留つて、お酒をのんだりお飯をたべ  
たりして、何時までも歸る摸樣がありませんから  
祖父は大に困りどりがなして此の二番ばえを歸さ  
うーと思つて一つの考へをめぐらし、えん側の風  
鈴に墨黒々と一首の歌を下げました

刈り跡に又も生えたる二番ばえ

どーも稻とは云ふに云はれぬ

（稻はいね歸れの義）

これを見て二番ばえの士族等は皆々すすむと歸  
つたそーです。

懸賞問答當撰ひろー

- (一) 一羽の鳥をにはとりとは？
  - (二) 幾つあつても じゅーぼこ（重箱）とは？
  - (三) 着るものでないに きせる（煙筒）とは？
  - (四) 一枚の紙をはんし（半紙）とは？
  - (五) 真中を通りながら はし（橋）を渡るとは？
- 一 等
- 姫路市五郎右衛門邸 大竹さく子
- (一) 一羽の鳥を千鳥といふが如し。